

福祉産業建設委員会

行政視察
10月24～26日

農地有効活用の ソーラーシェアリングなどを視察

令和4年10月24日から26日まで、農地の有効活用、補聴器購入補助金制度、公園にカフェ店誘致、浄化センターなど、課題解決に向けての知識を得るため、3市1町を訪問した。

10月24日

神奈川県小田原市
小田原かなごて
ファーム

「原発ゼロ、自然エネルギー100%社会を創る」ことをテーマとして取り組み、第一次産業（農林業）の復活に照準を定め、ソーラーシェアリングを考案した。

農地で作物を作りながら発電し、地産地消にこだわったプロジェクトである。

売電、ミカン栽培、米作りだけでなく、日本酒、ジュースの製造

も手掛けている。また、林業の問題にも取り組んでいる。



畑に設置されたソーラーパネル

10月25日

静岡県長泉町
長泉町役場

●補聴器購入費助成金の利用状況は、令和4年度行った見直しで、申請実績が大幅に増加。

●子育て支援全般では、人口増加率2・4%は県内1位。

町としていろいろな政策に力を入れており、特徴的な施策として、

10月26日

静岡県浜松市
浜松城公園

①未来人定住応援事業奨励金②定住のための新幹線通学支援補助金③こども交流センター（パルながいずみ）開設。



幸田町で検討中の中央公園にカフェ店誘致の進め方を学んだ。

浜松城公園では先ず、公園の景観を壊さない、



浜松城公園内のカフェ前で

出店後10年は継続することなど、4出店希望者と公園管理者が数年かけて、検討を重ね、1店を決定した。

カフェは公園の木々に溶け込み、建物を設置時に伐採した木を利用したドアの取っ手など、自然に対する配慮を感じた。

敷地使用料は固定資産税程度、公園の駐車料はカフェ利用者には無料。

愛知県田原市
赤羽根浄化センター

幸田町においては、蒲郡市と共同で下水へ接続する計画が決定していることから、大いに参考になった。説明を受けた後、現地視察を行った。

●し尿等受入施設の臭気対策
●し尿処理は、直営。
●施設の管理は民間へ委託。
●人員体制は、管理棟に、職員5人（正規2人、非正規3人）。

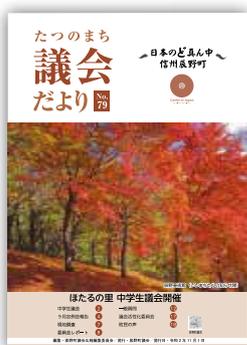


し尿投入システムの視察

議会広報特別委員会

行政視察
10月20～21日

常識にとらわれない 斬新な発想の広報誌に学ぶ



読み物から見ると、
にという編成方針で、
手に取ってもらい、分
かり易い紙面を目指す。
表紙や記事など横書
きにするなど、従来の
考えにこだわらない、
合理的な考えで進めら
れている。
記事作成や校正など、
積極的なパソコン活用
によるデジタル化で、
効率化が進む。常識に
とらわれない斬新な発
想での広報誌に学んだ。

10月20日
長野県辰野町
議会広報を学ぶ

編成方針として、議
会広報をまず手に取っ
てもらうには、表紙が
最重要だとしている。
写真は富士見町フォト
コンテスト入選作品か
ら採用し、インパクト
のある表紙にしている。
「議会満足から町民
満足」「主役は町民」、
多くの町民が顔写真付
きで登場する。
両町とも、議会だよ
りへの熱心な取り組み
は、参考になった。

10月21日
長野県富士見町
議会広報を学ぶ

議会基本条例制定特別委員会

行政視察
10月28日

知識習得すべく 美浜町を視察

美浜町議会は、行政
の情報伝達および、議
会の説明責任を果たせ
る基本条例の制定をし
ている。

一般質問での反問権
を定めたことにより、
根拠と質問の趣旨を分
かりやすくするため、
以前よりも議員自身が
しっかり情報収集し、
質問の質が上がった。
議員は、町民に分か
りやすく議会情報を伝
えるため、委員会など
での発言が増加した。

【主な意見交換内容】

問 特に重点をおいた
項目は。

答 主に4点。①議員
問での自由な討議
を明記②町民と議会と
の対話集会を開催③政
策形成過程の説明書④
反問権の明記。

問 条例の目的達成を
検証する体制は。



忌憚のない意見交換

答 年度末までに議会
運営委員会で検証。

問 町民との対話集会
の実績は。

答 令和4年5月29日
日曜日、町総合体
育館サブアリーナにて
開催。主な内容は、各
委員長より議会の審議
・審査、議会活動およ
び町政に関する報告、
質疑応答および意見交
換。90分間とした。

【所感】

一時間にわたり、本
音の意見交換を通じ、
有意義な場となった。